平成 27 年度第６回講演会　記録

日　　時	平成27年6月27日(土)　　13:00～16:00
会　　場	此花会館　梅香殿　大ホール
講　　師	フィールドソサイエティー　代表　久山　喜久雄先生　　事務局長　久山　慶子先生
演　　題	お寺の森での環境学習活動30年と事例報告
備　　考	参加者数　163名　　記録　杢三　文作

１．田中　克先生が冒頭“森里海連環学は１２年の歴史であるが、フィールドソサエティーの活動は３０年の実績があり、京都の自然保護にすばらしい成果を上げてきた団体である”との紹介があった。
浅学にして、その名を聞くのは初めてであったが、活動を始めた経緯、理念、活動内容をお聞きすると、人々が親しんでいる身近な自然、（例：東山の連なり、深泥ヶ池、鴨川、御苑の森など）を、次の世代を担う子どもたちにも、同様に身の周りの自然に親しみ、いのちのつながりを実感してほしいとの想いからであったという。喜久雄氏は、大学で働く傍ら自然観察員として活動、法然院の境内林も、活動フィールドの一つで、法然院住職の梶田真章さんに境内の自然の豊かさを伝えていく過程で交流が生まれた。法然院住職梶田さんは、寺院の持つ資源を活用し地域に開放したいとの思いから、コンサートやシンポジウムなどにお寺の施設を提供してきたが、法然院の境内林の豊かさを人々に伝え、守りたいという氏の願いが重なり合い、1985 年、法然院を会場に「法然院森の教室」を立ちあげた後は１９８９年「森の子クラブ」、１９９３年「法然院森のセンター」、施設の運営管理と環境学習を継続・発展させるための「フィールドソサエティー」を設立し喜久雄氏が代表に、慶子氏が事務局長に就任、以前にもまして活動の輪を拡げすばらしい成果をあげていることがよく理解できた。

久山　喜久雄先生

久山　慶子先生

２．その成果が対外的にも評価され、２０１５年度京都市環境審議委員を務められたこと、１９９１年に「法然院森の教室」の活動が第９回朝日森林文化賞など、他にも数々受賞されたこと、また「森の教室」での講演会講師の紹介があり各界の著名な人々がメジロ押しであった。、フィールドソサエティー活動が高く評価されている証左であろう。

法然院山門

３．講演は前半喜久雄氏がレジュメｐ.2～3 の各項目をＰＰを用いて説明された。休憩をはさみ慶子氏が事例報告をレジュメｐ.4 の項目に沿って説明があったが内容が多く書き切れないので割愛する。ことに印象深かった内容を二点記す。

① 久山夫妻の熱意と努力は立派であるが、同時に法然院梶田住職の存在も大きいことを想う。京都では、境内地にマンションを建設したり、観光寺院化の例が少なからずあるが、法然院のように、市民とともに自然保護や子供達の健全な育成に進んで協力し、さらには「お金は出すが口は出さない」姿勢は立派だと感服した。法然院を見習って欲しいと思う。

② 森づくりも活動のひとつであるが、「観察の森づくり」は①風景に価値がある森、②いろんな生物が暮す森　③自然エネルギーの可能性のある森　④楽しめて学べる森　⑤未来まで元気に育つ森　とのことであった。言うは易し、行なうのはいろいろな困難が伴うであろうが、あるべき形をはっきりと決め挑戦されていることはすばらしいと思った。

☆　フィールドソサエティーの活動の内容を詳しく知りたい方は→http://www.jttk.zaq.ne.jp/baais400/